

第4回推進委員会

第4回の推進委員会では、第3回委員会で議論した「具体的な取組アイデア」を実践していくために、それぞれの主体が持つ強みを生かしながら、誰がどのような役割を担うとよいか、また、多様な主体とどのように連携していくとよいかについて、議論しました。



開催概要

日時

平成27年 **9月18日**(金) 18:30~20:45

会場

市民活動センター 2階 第1研修室

出席者

21人

(委員:10人、市職員:6人、
ひろしまジン大学:5人) ※聴講者 3人

プログラム

- はじめに
- 全体の流れの確認、第3回委員会の振り返り
- 議論
アイデアを実現するための役割や、
つながり方を考えよう！
 - オリエンテーション
今日の目標、タイムスケジュール確認
 - グループワーク
 - 3つのキーワードに分かれ、前回の振り返り
アイデア実現に向けた役割や、連携について議論
 - 2つのキーワードを加え、役割を見つめ直す(追加)
 - 全体での共有
- 次回に向けて



議論:オリエンテーション

4つ目のステップ、「アイデアを実現するための役割や、つながり方を考えよう！」について議論します。

第3回委員会では、「こんなことに取り組んでいかなければ！のアイデアを考えよう！」というテーマで、これまでに
出された問題や課題に対して、取組や解決方法を出し合いました。

そこで、今回は、5つのキーワードごとに整理した「具体的な取組アイデア」について、どのような主体（組織や個人など）が、どのような強みを生かして役割を担い、これらに取り組んでいくことができるか、またそのためにどのような連携が必要かについて議論します。

※ 5つのキーワードを、議論の内容を反映させ、次のように言葉を整理しました。

ひとつづくり・参加	→	社会参加や役割発揮のための人づくりや参加の入口づくり
組織(主体)の進化	→	組織(主体)の意識や活動の進化
情報共有	→	地域の問題解決のために必要な情報の共有
社会的孤立への対応	→	社会的孤立を見逃さないためのかかわり方
新しいつながり	→	多様な主体の強みを生かした支え合い

議論:グループワーク

【グループワーク①】

前回と同様に、3つのキーワードごとのグループで議論しました。

まず、「ステップ3まとめ」や第3回委員会の模造紙をながめながら、これまでの振り返りと併せて、追加すべき点がないか確認、共有しました。その後、グループで出し合ったさまざまな取組アイデアについて、委員の皆さんが所属されている組織の実情も踏まえながら、次の3つの視点で議論しました。

- ・どのような主体（組織や個人）が取り組むとよいか。（その主体の強みを考えながら）
- ・それらの主体はどんなことが担えるか
- ・どの主体が、どう連携するとよいか。

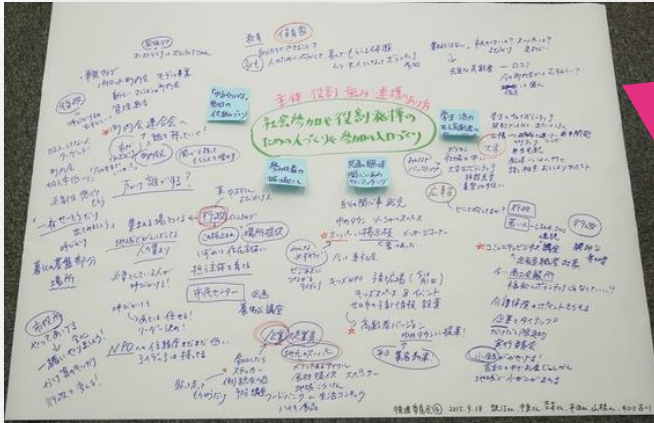
【グループワーク②】

グループワーク①の議論におけるそれぞれの視点から、残りの2つのキーワードである「社会的孤立を見逃さないためのかかわり方」と「多様な主体の強みを生かした支え合い」の視点を加え、グループワーク①で出し合った主体や担うべき役割を見つめ直しながら、議論を深めていきました。

【共有タイム】

それぞれのグループで議論した内容を紹介し合い、全体で共有しました。

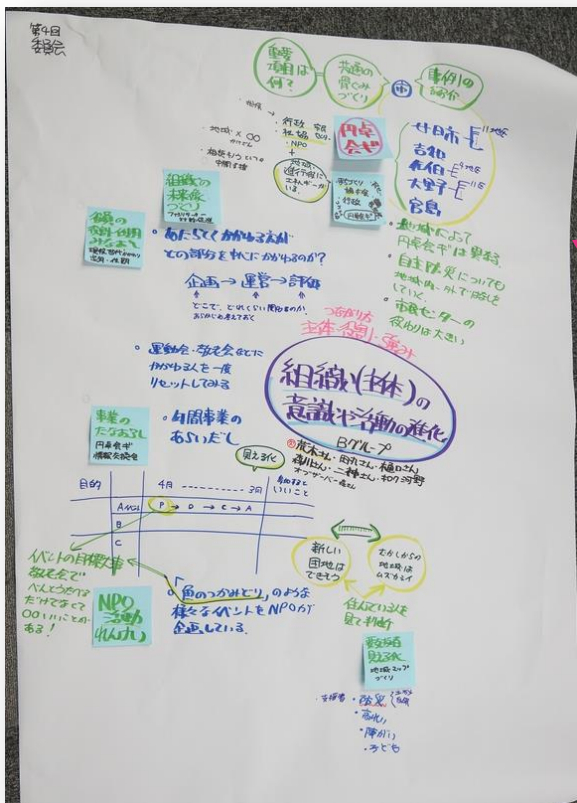




**社会参加や役割発揮のための
人づくりや参加の入口づくり**

参加の入口の工夫や、参加の呼びかけ方の議論から、どこでどんな団体が何をやっているのかわかる必要があり、「広報」が大切。「広報」というと、行政が担う以外にも、例えばゆめタウンなどに掲示板を置いて情報を発信したり、運送会社の車にステッカーを貼って走ってもらうなど、今あるもの(資源)を生かしながら、地域貢献と併せて役割を担うことができそうです。

その結果、発掘された人に対して動機付け(きっかけづくり)をするのは、信頼やネームバリューのある行政。そして、企画力や行動力のあるNPO団体がつながれば、強みを生かした取組が展開できるのではないのでしょうか。



組織(主体)の意識や活動の進化

組織の意識や活動を進化させるために、実際に行動し実践するのは地域です。ただし、その地域が動こうと思ったときに、廿日市市としての共通の骨組みや、事例の発表会のようなきっかけやつながりをつくる役割は行政がやらなくてはなりません。では、実際に地域でどういことを進めていくのかという、事業のあらいだしとして全ての事業をみんなで出し合い、「見える化」します。事業の目的や参加のメリットなども明確にしなが、「一覧表」のようなものをつくと、自分がかかわりたいところも出てくるので、そこから、人材や参加の切り口を開いていくことができるのではないのでしょうか。こうした取組を手助けしてくれるNPOもあるので、その力を借りながら進めていくこともできそうです。



地域の問題解決のために必要な情報の共有

何か悩みがあるときに、「とりあえずここへ」という場所として、社協に「なんでも相談センター」的な位置付けのものが、そこには「仕分けのプロ」(=問題を解決するために必要なところにつなぐ人)がいるとみんな行きやすいと思います。それが担える人は、知識経験が豊富な市役所のOBの方や、(前回答が出た)セミプロの人などがよいのではないのでしょうか。

分かりやすい情報や相談の窓口として、地元の人が行きやすい地元のスーパーのようなところももちろんですが、個別の問題について濃密に相談できる場所も必要です。「なんでも相談センター」がこの2つをつなぐところにあって、うまく振り分けもらえるような役割があるといいと思います。

行政、企業・事業者や商工会議所、福祉施設、ボランティアグループ、町内会…などを「掛け算」にすると可能になることが結構あるのではないのでしょうか。日本では行政に対して信頼をおいています。多様な主体がやろうとしていることを、行政がかかわることで信頼性を「担保する」ことができます。

多様な主体が手をつないで仕事をしていくために、お互いが活動や仕事の仕方を少し変える必要があります。相手だけに変わることを求めては協働はうまくいきません。お互いの在り様を変え合って、はじめてつながり合えるのです。そういう意味で、行政にも仕事の仕方を変えてもらうことが必要になります。福祉施設も、企業も同じです。企業や商工会議所との掛け算も、「社会貢献」として何か目に見える形にしていけば、参加してもらえることも多くなるのではないのでしょうか。例えば、定年退職者を対象にしたコミュニティビジネス講座の支援や、商店、スーパーやコンビニを上手に巻き込むことなど。



「情報」も町内会に掲示板を作っても、みんなが車で往来する時代、目にとまりません。ならば、人が車で集まってくるスーパーなどに掲示板を設けて、情報センター機能を担ってもらったらどうでしょう。こうすると、事業者にも住民にとってもよいのではないのでしょうか。

「相談」の話もありましたが、日本人は相談下手です。「相談」をうまく生活の中に取り入れて生活の質を上げていくことに不慣れです。もっと相談に対する考え方を変えたり、環境を整えていくことが大事です。また、「中間支援」の必要性を痛感しています。住民と専門家・関係機関など多様な相談機関との間を「振り分け」て、上手にサービスを活用できるように支援する機能を強化していくことも大事だと思います。

第4回委員会に出席した委員のみなさんから

「地域福祉」についての気づき・発見

- ・ 日常生活で利用する場（スーパーやコンビニ）も、大切な社会資本であることが分かった。
- ・ 福祉のレベルに差があり、すべてに対応を考えると難しいなど。
- ・ “中間支援”という言葉を学びました！
- ・ どの世代も最後は口コミ、Face to Face のような気がする。
- ・ 地域福祉は担当機関、団体だけで進められるものではないこと。掛け算の方程式が大切。
- ・ 有償のボランティアを活用することで、社会参加者を多くすることができる。
- ・ 行政とNPO法人をうまく掛け算して、地域活性化させることが必要である。
- ・ 情報…発信する課題と受け手の課題、ゆるやかな情報と専門的な情報、それぞれに対する処方があるなと思いました。



今日の感想

- ・ 違うテーマの班と同じ結論（アイデア）が出たのでびっくりしました。入口は別でも根っこは同じだなと。
- ・ 議論が活発。色々な世代の意見が聞けて、ためになります。
- ・ それぞれの組織が同じ目的を持ってつながっていたら、地域福祉を進めるうえで役に立つと、改めて思いました。
- ・ たくさんの人がいれば、いろいろな切り口での話題が出るので、こういう場がいつもあればいいな—と思いました。
- ・ 組織のあり方について、具体的な手段を交えた議論ができてよかった。実際に自分の地区で実践しようと考えたとき、ハードルの高さで気絶しそう。
- ・ かなり焦点が絞られてきた感じがします。中間報告会、最後の会議を期待しています。



第5回推進委員会のお知らせ

目標： 実行に移すための推進のしくみを考えよう！！

第5回はよいよ議論の最終回です。これまでに議論してきたたくさんの取組アイデアや担うべき役割について、これらを実現させるための「実践の仕組み」や「評価のあり方」について検討します。